

このレポートは、住宅市場の把握に欠かせない各種データや経済指標により親しみを感じていただくためのものです。気軽にお読みいただければ幸いです。

## 経済指標を心に届けるひと工夫

住宅市場研究室 小間幸一

[kouichi-koma@toshinjuken.co.jp](mailto:kouichi-koma@toshinjuken.co.jp)

無味乾燥に見られがちな経済指標も着色して並べて見ると急に表情豊かになる。そして、自然に心に届くようになる。

偶然このことに気づいたのは住宅市場の動向を知るために毎月作成している住宅市場天気図(※1)のおかげだ。この天気図なるものは住宅市場に関係すると考えられる23前後の経済指標(建設物価建築費や住宅着工数等)の動向を要注意は赤、注意は黄色、普通は緑と色分けして示している。住宅市場を一目でわかるために2年前から月一回のペースでつくりはじめた。そのためには各種指標を定期的に集めることが必要だ。各指標がばらばらに公表されるので、集めるのも大変だ。さらに、色分けするのなかなか難しい。毎月、部下に手伝ってもらってなんとかやってきた。

努力の甲斐があり今年4月にようやく2年を超えた。すると成果を実感したいという子供じみた思いがふつふつと湧き上がり、全部並べてみたくなった。(次頁参照)するとどうだろう。リーマンショックを含む激動の住宅市場が表情豊かに目に飛び込み、記憶に働きかけてくるではないか。これには正直驚いた。

解説風に述べよう。2008年4月はうす緑が目立つ。その後、真っ赤が少し増え、リーマンショック後の2009年1月頃から全体が真っ赤の火だるま状態。10月ぐらいまで延々とそれが続く。12月から色が徐々に薄まり、現在はうす緑とうす黄色が目立つ春らしいほんのりした状態だ。

このように経済指標も色づけをして表情を与えると、もはや数字の羅列ではない。見る者に表情を持って饒舌に語りかけ、その時々記憶も鮮烈によみがえってくる。とかく面白みに欠けると敬遠されがちなデータや経済指標だが、色づけをして並べるというちょっとしたひと工夫でぐっと心に届くようだ。

以上

※1:住宅市場天気図 <http://www.jyuseikatsu.jp/backnumber/report.html>

※本ページの内容はあくまで執筆者の個人的見解に基づくもので、当社としての正式見解と必ずしも一致するものではありません。予めご了承ください。

# ■住宅市場天気図の2年間の推移

